

教 科		科 目		
地歴		日本史探究	単位数： 3単位	
指導目標 ：社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
メディア視聴	事情に応じて許可（東京書籍） ①視聴講座を 100%視聴 ②確認テストクリア	60%	教科書	『日本史探究』東京書籍
スクーリング	1 単位時間×3 回	合格時間数 8 時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用
レポート	全 9 回	合格枚数 9 枚	副教材	なし
試験	あり	試験評価割合 100%	評 定	100 点法 5 段階評定
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)	レポート (締め切り)	スクーリング (日程と内容)	
	先史社会の生活と文化 1 旧石器時代の日本 2 縄文文化 歴史資料と先史・古代の展望 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 2 東アジアとの交流のなかでうかがえるあがる歴史 3 木簡が語る律令国家の実態 古代社会の形成と展開 1 大和王権と古墳文化 2 飛鳥の朝廷と文化	第 1 回 (4/30)	第 1 回	人類の誕生から、日本人のルーツなどについて学習する。 縄文時代については、中学校までで学習した内容を振り返るとともに、実は最も長い時代であることを知る。 その後、日本が中国と古くから関係の深い国であることを知るとともに、中国から見た日本の姿を確認する。 社会が次第に発展し、歴史上でも聞いたことのある聖徳太子などの登場によって更に社会が変容していく流れを確認する。
	古代社会の形成と展開 1 律令国家の形成と白鳳文化 2 平城京と天平文化 摂関政治と貴族文化 1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と摂関政治	第 2 回 (5/15)		律令国家として制度が発達していく過程を学習する。天皇家中心とした国家体制から、次第に藤原家が勢力を拡大し、権力を握っていく流れを知る。藤原家の摂関政治の仕組みが後の時代にまで大きな影響を与えていることを学習する。また、それまで中国の影響を強く受けてい

	3 国風文化			た日本が、固有の文化や文字、芸術を開花させたことを理解する。
	中世社会の成立 1 朝廷政治の変容 2 武士の政治進出 歴史資料と中世の展望 1 武家権力による日本社会の変容 2 厳しい自然環境での人々の生存戦略 3 中世日本の国際交流 武家政権の成立と朝廷 1 鎌倉幕府の誕生 2 執権による政治 3 モンゴル襲来と社会の変貌 4 鎌倉仏教と文化	第 3 回 (5/30)		摂関政治に対して、朝廷が院政を開始したことを理解する。また、貴族や朝廷にとって武力が重要な要素となっていたことを知り、武士が登場する背景を理解する。 そして、摂関家・天皇家・武士による勢力図が完成し、平家政権が樹立していくことを理解する。 この一連の流れがあって、源氏による鎌倉幕府の成立という時代の転換点を学習する。 鎌倉幕府も結局北条家によって支配されることとなり、以降中世封建社会を形成していくことを理解する。
	武家支配の広がり と 国際交流 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立 2 倭寇と東アジア国際交流 3 室町幕府の時代と経済活動 4 自立する戦国大名 5 室町文化	第 4 回 (6/15)		蒙古襲来以降鎌倉幕府が政権を維持することが困難となり、幕府が滅亡していく流れを確認する。 室町幕府の成立までは人物の動きが複雑なため、何が原因で南北朝に分かれたのか理解しやすいように整理する必要がある。 また、東アジアで脅威となった倭寇とそれに対する勘合貿易は 1 つの特徴的な経済活動として理解をさせる。 室町時代の文化は生徒によっては修学旅行で見たり、学習したこともあると思われる。そうしたものを紹介することで学習に親近感を抱かせたい。 室町が実質的に終わりを迎えることになる壬申の乱によって、戦国時代が始まることを確認する。戦国時代はゲームや漫画などの題材にもなりやすく、人気の高い時代であるため少し人物を紹介するなどしてもいいと考える。
	近世社会の形成 1 地球的世界の形成と日本 2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化 歴史資料と近世の展望 1 参勤交代と幕藩体制 2 百姓たちの生活世界	第 5 回 (6/30)	第 2 回	世界では大航海時代の真っただ中であり、日本にも鉄砲の伝来やキリスト教の布教など影響が始まったことを確認する。 また、織豊政権は日本史でも特に有名な織田信長や豊臣秀吉が登場するため、生徒にとっては親しみやすい内容であると思われる。 その後、豊臣政権の政策などを確認し、江戸幕府

	3 江戸時代の対外関係 幕藩体制の確立 1 江戸幕府と大名・朝廷			府が成立するまでの過程を知る。いよいよ戦国時代も終わりを迎えるため、この時活躍した人物、特に徳川家康のような時代を変えた人物は丁寧に紹介することも適宜行いたい。 江戸時代は当時の世界でも珍しい、比較的平和な時代が約 250 年続いた時代であり、江戸幕府の政策が特徴的であったことが大きな要因であると考えられる。鎖国や参勤交代などはその要石であるため、用語をしっかりと理解させたい。
	近世社会の展開 1 近世の身分と人々の暮らし 2 アジアのなかの幕藩体制 3 武断政治から文治政治へ 4 幕藩体制下の社会の発展 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺 1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機 3 幕藩体制の立て直し 4 幕藩体制の動揺	第 6 回 (7/15)		江戸時代における人々の暮らしや社会の発展について学習する。特に、学問を重視するようになる文治政治への転換はそれまでの時代と大きく異なる性格であるため、新井白石などの活躍は確認したい。 また、江戸中期以降は天災や政権の運営などの問題によって、次第に江戸幕府の財政などが苦しくなっていったことを理解する。更に外国勢力の次第にアジアで勢力を拡大しており、幕府にとっては難しい局面を迎えていたことを理解する。
	近代社会の幕開け 1 開国と開港 2 幕府の崩壊と明治維新 歴史資料と近現代の展望 1 資本主義の発展と生活 2 国民国家と政治参加 3 世界のなかの近現代日本 近代制度の導入と新しい国際関係 1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備 3 東アジア世界のなかの明治政府 4 政府専制への批判	第 7 回 (7/30)	第 3 回	黒船の襲来によって、いよいよ江戸幕府が開国をせざるを得ない状況になったことを理解する。幕末もゲームや漫画など人気のある時代であるため、活躍した人物などを適宜紹介できればと思う。尊王攘夷派ばかりに目が行くと、旧幕府側はダメに見えるかもしれないが、俯瞰的にみるとどうだったのか、なるべく公平に内容を取り扱いたい。 また、明治時代に入ってから富国強兵のために様々な海外の技術・文化が輸入され、日本がすさまじい速度で発展していったことを理解する。これが後の時代の戦争などにも関わることを理解する。
	国民国家と資本主義の成立 1 立憲政治の成立 2 対外関係の変容と日清戦争 3 産業革命と資本主義の定着 4 教育制度の整備と新しい文化 5 日露戦争と帝国日本 6 日露戦争後の社会と政治	第 8 回 (8/30)		明治に移行してから発展を遂げた日本が、アジアの覇者であった清と戦争し勝利する流れを確認する。その後の三国干渉などによる対ロシアの意識と、日露戦争の終結までここはひとつの流れとして学習していく。日露戦争の勝利は国際社会にも衝撃を与え、日本が欧米列強に迫りつつあることを理解する。

	両大戦間期の日本 1 都市化・重工業化と生活の変化 2 政党政治とデモクラシー 3 国際社会のなかの日本 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌と立憲政治の動揺 2 中国侵略と戦時体制への移行 3 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開		また、その後の第一次世界大戦では、日本は戦争によって利益を出し、政党政治も行われるなど一見順調に見える時代であったことを知る。 しかし、恐慌によって状況が変わり、軍部による政党政治の終焉や満州における関東軍の暴走など、第二次大戦へ向かっていく状況を確認する。このことから、戦争における反省などが学べると良い。なぜ戦争に至ったのかを知るとは、現代日本を生きる社会の一員として重要な様相である。 そしていよいよ枢軸国として第二次大戦を展開していく過程を知る。
	占領と改革 1 占領と日本国憲法の成立 2 冷戦の開始と経済復興 国際社会への復帰と高度経済成長 1 国際社会への復帰と対米協調 2 高度経済成長 アジア情勢の変化と経済大国日本 1 1970年代の国際社会と日本 2 安定成長への転換 新しい国際秩序と日本の課題 1 激変する世界と日本 2 21世紀の日本 現代の日本の諸課題 1 社会や集団と個人 2 世界のなかの日本 3 伝統や文化の継承と創造	第9回 (9/30) 提出期限 (11/28) ※最終締め切り(1/15)	太平洋戦争で日本が敗北し、GHQによって占領された時代を学習する。太平洋戦争末期の日本の悲惨さも理解する。 占領下の日本で行われた改革や、日本国憲法の制定など、現在の日本の骨格が出来上がる過程を知る。 また、戦後日本は急速に経済成長を遂げ、国際社会にも復帰を果たすことができた流れを確認する。この時、国際社会では冷戦が続いており、日本も西側諸国として冷戦に巻き込まれたことを知る。 自衛隊や米軍基地などニュースで今も話題になることの背景を学習できるとなお良い。 経済成長を続けた日本であるが、途中では石油ショックやドルショックなどの危機を迎えていたことを学習する。 また、21世紀になるにつれ、少子之以下などの多くの課題に直面していることを確認する。 今まで学習してきたことから、今後自分はどのように考えるか、そういった自立した意識を持つことの重要性を最後に伝えられると良いと考える。

2 評価の観点

知識・技能	テストの結果で評価します。
思考・判断・表現	レポートの最終問題で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	スクーリング時に取り組む姿勢や、成果物で判断します。 ※メディア視聴の成果もこの観点で評価します。

3 評価の方法

上記の観点に基づき、年度末に 5 段階で評価を出します。

【知識・技能】テスト結果（7 割）

【思考・判断・表現】レポート最終問題(2 割)

【主体的な態度】スクーリングの時の成果物（1 割）

4 担当者からのメッセージ

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。面接指導だけで教科書の全範囲を解説することは難しく、説明のスピードも速くなります。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。分からないところは、教科担任に聞いてみるのも良いです。